

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

総合的な思春期・若年成人（AYA）世代のがん対策のあり方に関する研究

「AYA世代がん患者の妊孕性温存に関する研究：地域モデル構築の統括およびマニュアル作成」

研究分担者 古井辰郎 岐阜大学大学院医学系研究科 准教授

研究要旨： AYA 世代がん患者への生殖機能温存の情報提供体制整備とそれに向けた実態調査、啓発活動、人材育成、医療連携間の相互支援体制構築などを実施。専門医、患者・サバイバーに対する実態調査結果は論文掲載予定 1、投稿中 2。後者においては、Oncofertility Consortium Japan を設立。

A．研究目的

地域完結型がん・生殖医療連携の全国展開(日本版 Oncofertility Consortium)による AYA 世代のがん患者の妊孕性に関する支援とそのための人材育成を目的とする。

B．研究方法

- 1) がん専門医、がん患者・サバイバーに対する全国大規模実態調査を実施した。
- 2) 岐阜モデルでの経験や実績をもとにし、日本がん・生殖医療学会(JSFP)とも協力し、全国での地域完結型がん・生殖医療ネットワーク構築支援およびネットワーク間の相互支援体制構築を実施した。
- 3) 講演会、学会シンポジウムなどを通して医療者、一般に対する啓発活動を行った。
- 4) 日本生殖心理学会と協力し、がん・生殖心理専門心理士の養成を行った。

C．研究結果

- 1) がん治療専門医においては生殖医療に関する情報提供の重要性は感じつつも生殖医療資源の偏在によって、適切なタイミングで正確な内容の情報提供がなされていない。診療科による意識の格差などが明らかになった(癌と化学療法誌に掲載予定)。患者、サバイバーにおいても上記と同様の問題点に加え、実際にサバイバーではがん治療による不妊、卵巣機能低下、更にそれによる拳児断念が有意に多いことが明らかになった。更にこれらは小児期発症サバイバーにおいても同様の傾向が認められた(論文投稿中)。
- 2) 地域ネットワーク構築に関しては、2018年2月時点で18府県まで拡大している。また、Oncofertility Consortium Japan Meetingの開催およびその成果物をJSFPホームページを利用してオープンソースとして共有することなどによって相互支援体制が確立された。
- 3) JSFP学術集会、日本受精着床学会、日本婦人科腫瘍学会、日本IVF学会、日本小児血液がん学会などでのシンポジウムをはじめ、各地域のがん・生殖医療の講演会(愛媛、宮城、名古屋市)等での啓発活動を行った。
- 4) がん・生殖医療専門心理士は18名となった。また、

看護、薬剤等の他職種領域の関係者によるJSFP参加も増加している。

D．考察

大規模実態調査の結果は、小児、AYA世代のがん治療における生殖機能に関する情報提供や適切な対応ができる体制の構築の必要性が再認識された。また、18地域でがん・生殖医療ネットワークが稼働されるようになったことで地域のAYA世代がん患者の生殖機能に関わる諸問題の医療連携の円滑化に大きく貢献することが期待できる。また、今後の他地域への波及効果も少なくない。JSFP websiteに作成した本研究生殖小班のページは、一般医療者への本研究の成果の提供を可能としただけでなく、各地域や施設での資材の共有が、ネットワークの全国展開を加速させる上でも有効なツールとなり得ると思われる。また、本研究によって実施した人材育成、啓発活動は、本領域が多職種の医療連携促進に大きく貢献したと思われる。

E．結論

本研究班の活動の直接的効果として18地域での地域ネットワークの活動が開始され、5地域で準備中となった。また、Oncofertility Consortium Japanの設立は地域ネットワークの維持における相互支援に効果が期待できる。さらに、間接的効果としてはがん治療学会のガイドライン発に少なからず寄与したと思われる。

G．研究発表

1．論文発表

よくわかる臨床不妊症学【生殖補助医療編：2がん・生殖医療の現在 図説第3版．2018．中外医学社．古井辰郎、寺澤恵子、森重健一郎
日本精神科病院協会雑誌37(2)：岐阜県での周産期メンタルヘルスケアの現状と今後の取り組み．2018．志賀友美、古井辰郎、森重健一郎
乳がん患者の妊娠・出産と生殖医療に関する診療の手引き：乳癌患者の生殖医療を行う施設としてどのような施設が勧められるか？2017．金原出版．2017年版：日本がん・生殖医療学会編．古井辰郎
最先端医療シリーズ48 臨床医のための最新産科婦人科：2. 地域におけるがん・生殖医療ネッ

トワーク構築 . 2017 . 先端医療技術研究所 . 古井辰郎、牧野弘、寺澤恵子、竹中基記、山本晃央、森重健一郎

がん・生殖医療ハンドブック : 48わが国におけるがん・生殖医療ネットワークとその役割は? - J SFPの取り組みを中心に . 2017 . MCメディカ出版 . 古井辰郎、牧野弘、寺澤恵子、竹中基記、菊野享子、山本晃央、森重健一郎

癌の臨床 . がんと生殖医療 - 生殖医療医の立場から 医療連携による適切な妊孕性温存の適応と患者の自己決定支援の重要性【特集1】オンコロジーからみたがん・生殖医療の現状と問題点 . 2017 . 古井辰郎

日本医師会雑誌146(6) 1200-1201: 医学的適応による妊孕性の温存 . 2017 . 森重健一郎、山本晃央、古井辰郎

Alexandra S. Rashedi, Saskia F. de Roo, Lauren M. Ataman, Maxwell E. Edmonds, Adelino Amaral Silva, Anibal Scarella, Anna Horbaczewska, Antoinette Anazodo, Ayse Arvas, Bruno Ramalho de Carvalho, Cassio Sartorio, Catharina C.M. Beerendonk, Cesar Diaz-Garcia, Chang Suk Suh, Claudia Melo, Claus Yding Andersen, Eduardo Motta, Ellen M. Greenblatt, Ellen Van Moer, Elnaz Zand, Fernando M. Reis, Flor Sanchez, Guillermo Terrado, Jhenifer K. Rodrigues, Joao Marcos de Meneses e Silva, Johan Smits, Jose Medrano, Jung Ryeol Lee, Katharina Winkler-Crepaz, Kristin Smith, Lígia Helena Ferreira, Melo e Silva, Ludwig Wildt, Mahmoud Salama, Maria del Mar Andrés, Maria T. Burlon, Mario Vega, Maurício Barbour Chehin, Michel De Vos, Mohamed Khrouf, Nao Suzuki, Osama Azmy, Paula Fontoura, Paulo Henrique Almeida Campos-Junior, Peter Mallmann, Ricardo Azambuja, Ricardo M. Marinho, Richard A. Anderson, Robert Jach, Roberto de A. Antunes, Rod Mitchell, Rouhollah Fathi, Satish Kumar Adiga, Seido Takae, Seok Hyun Kim, Sergio Romero, Silvana Chedid Grieco, Talya Shaulov, Tatsuro Furui, Teresa Almeida-Santos, Willianne Nelen, Yasmin Jayasinghe, Yodo Sugishita, Teresa K. Woodruff: Survey of Fertility Preservation Options Available to Patients With Cancer Around the Globe. J Glob Oncol, 2017

がんと化学療法 45(5): 本邦におけるAYA世代がん患者に対する妊孕性に関する支援体制: がん専門医調査の結果より、2018 (掲載予定) 古井辰郎、高井泰、木村文則、北島道夫、中塚幹也、森重健一郎、山本一仁、橋本大哉、松本公一、大園誠一郎、堀部敬三、鈴木直

2. 学会発表

Furui T: How to set up a fertility preservation unit. Concurrent Session 9 Fertility preservation. The 7th Congress of the Asia Pacific Initiative on Reproduction, Kuala Lumpur (Malaysia) Mar.30- Apr. 2, 2017

古井辰郎: 若年がん患者の早発卵巣不全(P01)対策と岐阜県での医療連携の取り組み」. 第1回埼

玉県がん・生殖医療ネットワーク研究会(祭玉)H29.2.18

古井辰郎: 若年がん患者の早発卵巣不全(P01)対策と地域における医療連携. 兵庫県がん・生殖医療ネットワーク第2回講演会(西宮)H29.2.24

古井辰郎: 乳癌患者の妊孕性温存に関する諸問題の岐阜モデル現状と課題. 第60回東海乳腺疾患懇話会(名古屋)H29.4.8

古井辰郎: がん・生殖医療における地域ネットワークと他施設連携. 若年乳がん患者の妊孕性温存に関する心理支援セミナー(横浜) H29.1.29

古井辰郎: がん患者の妊孕性温存と胚培養士の役割 ~ 岐阜県がん・生殖医療ネットワークの取組から ~ . 生殖医療技術者のためのリカレントセミナー岡山・福岡・名古屋(名古屋) H29.2.19

古井辰郎: 小児思春期、若年がん患者の妊孕性低下およびその対策に関する現状と対策. 第23回オンコロジーセミナー(東京)H29.9.2

古井辰郎: パネルディスカッション 症例から考える乳がん患者の妊孕性温存. 第60回東海乳腺疾患懇話会(名古屋)H29.4.8

古井辰郎: 本邦におけるがん・生殖医療に関する医療連携の現状および課題、ワークショップ5 「進化 卵巣凍結・移植の最前線」. 第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会(岡山)H29.9.7-9

古井辰郎: がん・生殖医療医療の全国の現状. 第20回日本IVF学会(仙台)H29.9.30-10.1

寺澤恵子、古井辰郎、牧野弘、竹中基記、菊野享子、森重健一郎: 男性がん患者の妊孕性温存に関する問題点. 第69回日本産科婦人科学会学術講演会(広島)H29.4.14-16

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし